『大東アジア学論集』について

（2026 年 10 月 13 日　研究科委員会承認）

1. 本誌は年 1 回発行される。
   （26 号（2026 年度）より本誌はオンライン・ジャーナルとして、Web 上で発行・公開する。）
2. 本誌には、アジア諸地域に関する、人文・社会科学および関連領域の論文、研究ノート、重要文献・資料およびその翻訳、調査研究活動報告、書評等を掲載する。
3. 本誌には、大東文化大学アジア地域研究科博士課程前期課程の在学者及び修了者、後期課程の在学者及び修了者、アジア地域研究科教員のほか、編集委員会が適当と認めた者が寄稿できる。
4. 投稿された原稿は編集委員会の責任において採否を決定する。

『大東アジア学論集』執筆要領

I. 原稿の作成方法

1. 使用言語は、日本語あるいは英語とする。
2. 論文には要旨（Abstract）をつける。その際、本文が日本語の場合は英文の Abstract（200 語以内）、英語の場合は日本語の要旨（800 字以内）をつける。
3. 表題、執筆者名は日本語、英語の両方で表記する。
4. 原稿は所定の原稿フォーマット（MS Word）に基づいて作成する。原稿は、1 頁（B5 判サイズ）の字数を横書き 40 文字×37 行×1 段組とする。
5. 原稿の上限は、以下の頁数とし、本文の他に表題、執筆者氏名、要旨（Abstract）、図表、注、文献などもこれに含める。
   ①頁数の上限：
   ・論文、重要文献・資料およびその翻訳は 15 頁以内（20,000 字程度、英語の場合は総語数 10,000 語程度）とする（以下、英語の場合はこれと同様に換算）。
   ・研究ノートは 9 頁以内（12,000 字程度）とする。
   ・修士学位論文の要旨、および博士学位論文の要旨は 3 頁以内（4,000 字程度）とする。
   ・フィールド・ノートは 3 頁以内（4,000 字程度）とする。
   ・書評は 6 頁以内（8,000 字程度）とする。
   ・論文に対するコメントは 1 頁以内（1,200 字程度）とする。
   ②頁数の上限を越えた原稿については、編集委員会で受理しないか、または修正を求める場合がある。
6. 原稿の書式については以下の点に留意する。
   ・原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則として半角算用数字（1、2、3）を用いる。ただし万以上の数字には、万、億などを用いる。概数の場合は十数人、十数年などとする。
   ・年代表記は、単年は、1945 年、複数年は、1945–48（1945–8 としない）と記す。
   ・人名・組織名は、日本語の名称（英語・他言語の名称、生没年等）と記す。
   （例）アンネ・フランク（Anne Frank, 1929–45）、国際連合（United Nations）
   ・現地語などの表記のためにローマ字にダイアクリティカル・マーク（補助記号）を付すことができる。（例）Ä　ā　ă
7. 図表、写真などは版下として使用できるものを提出し、それぞれの通し番号、必要な場合には表題をつける。挿入箇所の指定のために、本文の欄外に、図表、写真番号を記す。また必ず単位、出所を明記する。空欄や特別記号を用いた場合には、その意味を必ず注記する。原表の数字の合計が合わない時は注記する。本文の数値、表記との整合に留意する。
8. 注は脚注とする。注には通し番号をつける。本文中の注番号の指示は、該当箇所の肩に 1)、2) などの上付きの形で付す。（例）ラムサール条約[1)]

9. 引用文献・参照文献は、原則として本文中の該当箇所に入れ、角カッコを付し、[著者の姓(1 字分半角スペース)発行年：ページ数]の形で記す。同一の文献を繰り返し引用・参照する場合にも、そのつど文献表記をすること。

（例）

……[Tabata 1978: 147]

……[松本 1988a: 35–39]

……[中村 1997: Ch. III]

……[福田ほか 1979]

……[Fukushima et al. 1980]

……[小杉 1987; Simon 2008]

……[Robertson, H. 1979; Robertson, S. 1998]

……[加賀谷 1958: 7–17; 1966: 1–20]

10. 引用文献、参照文献は、稿末にまとめ下記の方法により記入する。

①一般原則

文献表示の順

a. 単行本、多巻本など

(1) 著者の姓・名（姓もしくは名が一文字の場合は一字空けること）

(2) 発行年（西暦）

(3) 『書名』シリーズ名（カッコ書きする）

(4) 出版地・発行地名（外国語文献の場合のみ記入）

(5) 出版社・発行所名

b. 雑誌、論文、新聞など

(1) 著者の姓・名（姓もしくは名が一文字の場合は一字空けること）

(2) 掲載紙誌の発行年（西暦）

(3) 論文タイトル

(4) 掲載紙誌名

(5) 巻・号

(6) ページ（ページ数が 1 ページの場合は「p.」、複数ページの場合は「pp.」とすること）

②リストの順

a. 日本語文献(アイウエオ順)、外国語文献(アルファベット順)の順でそれぞれ記す。

b. 同一著者による複数の著作は年代順。

（例）

i) 日本語文献の記載例

a. 単行本

深沢　宏 1972『インド社会経済史研究』東洋経済新聞社

———— 1987『インド農村社会経済史の研究』東洋経済新聞社

b. 論文

・単行本所収論文

玉城康四郎 1963 「近代哲学とアートマン思想」中村元(編)『自我と無我』平楽寺書店、pp. 617–719

・雑誌掲載論文

飯塚正人 1998 「イスラームと原理主義」『現代中東研究』No.18、pp. 12–19

c. 翻訳文献(発行年は原典発行年ではなく翻訳本発行年とする)

スミス、ウィルフレッド・キャントウェル 1974『現代におけるイスラム』(中村廣治郎訳) 紀伊国屋書店

d. 新聞

『毎日新聞』 2000 年 3 月 22 日「米・インド関係－両国首脳交流拡大の共同声明に署名」。

e. 文書

斉藤良衛（作成年不詳）「日独伊同盟条約締結要録」外務省記録 B.1,O.O.J/X3-7。

f. オンライン文献

下記ii)f.に準ずる。

ii)外国語文献の記載例

a. 単行本

Wiser, William H. 1936. *The Hindu Jajmani Syste: A Socioeconomic System Interrelating Members of a Hindu Village Community in Services.* Lucknow, Lucknow Publishing House.

b. 論文

・論文集掲載論文

Madan, T. N. 1985. "Concerning the Categories Subha and Suddha in Hindu Culture: An Exploratory Essay," in John B. Carman and Frederique A. Marglin (eds.), *Purity and Auspiciousness in Indian Society*. Leiden, E. J. Brill, pp. 11–29.

・雑誌掲載論文

Jha, D. N. 1989. "Early Indian Feudal Formation," *The Journal of South Asian Studies.* Vol. 1, pp. 1–21.

c. 翻訳文献（発行年は原典発行年ではなく翻訳本発行年とする）

Burckhardt, Titus. 1992. *Fez, City of Islam*. tr. William Stoddart. Cambridge: The Islamic Texts Society.

d. 新聞

Khalid, Amayreh. 2005 (October 6–12). "Closer to the red line," *Al-Ahram Weekly*.

e. 文書

Foreign Office Records 371/2490: report 12, Marks Sykes (Cairo) to C. E. Callwell (London), 14 July 1915.

f. オンライン文献

Polity IV Country Reports 2007: Indonesia http://www.systemicpeace.org/polity/Indonesia2007.pdf（2008 年 9 月 22 日閲覧）

11. 特殊文字、特殊言語の使用に関しては、編集委員会に相談のこと。
12. 既存の出版物などから写真、イラスト、表、図などを転載する場合は、投稿前に必ずその著作権者から書面での転載・改変の転載許諾を著者自身が手続きを行って取得すること。なお、転載による費用が発生する場合は、著者の負担とする。転載許諾書等は、原稿提出時に併せて提出すること。

II. 校正・抜刷

1. 執筆者による校正は再校までとし、最終校正は編集委員会で行う。
2. 論文などの抜刷は、全額自己負担で発注することができる。抜刷を希望する場合は、原稿提出時に編集委員会に予め申し出ること。

III. 原稿の申込・投稿方法

1. 投稿希望者は、12 月 1 日から、12 月 31 日午後 3 時までに、所定の執筆希望票（①執筆者名、②原稿の種類、③原稿のタイトル（仮題でも可）、④予定頁数）に記入し、大東文化大学国際関係学部事務室大学院係宛にメールで申し込みをすること。ただし、予算上の制約により、投稿希望者全員の原稿掲載ができない場合がある。
2. 投稿申込者全員に、申し込み後 2 週間程度で、編集委員会から、「投稿の可否」を連絡する。投

稿が「可」となった投稿申込者には、「原稿フォーム」を送信する。投稿申込者は、原稿の電子データをメールに添付して提出する。原稿提出は、2 月 1 日から、2 月 28 日午後 3 時までとする。但し、修士学位論文の要旨・博士学位論文の要旨の原稿提出は、2 月 1 日から、3 月 10 日午後 1 時とする。博士前期・後期課程の在学者の投稿原稿は、あらかじめ指導教員の指導を受け、投稿許可を得る必要がある。

IV. 著作権・転載等について

1. 掲載された原稿に関する国内外の著作権の一切（著作権法第 27 条・第 28 条に規定する権利を含む）は、大東文化大学アジア地域研究科に帰属する。掲載にあたり、各著作者はアジア地域研究科への著作権委譲承諾書・投稿票を提出すること。但し、著作者は掲載された原稿を次項に定める項目を満たすことで、利用（転載・複製・翻訳・翻案等）することができる。
2. 本誌に掲載された原稿の転載等を希望する場合には、編集委員会に連絡の上、所定の書式により承諾をえること。また、転載の際には、その原稿が本誌に掲載されたものであることを明記（出所明記）すること。

V. 提出先・連絡先

1. 提出先：大東文化大学国際関係学部事務室大学院係
   E-mail: kokusai1986@jm.daito.ac.jp
2. 問い合せ：大東文化大学アジア地域研究科『大東アジア学論集』編集委員会
   E-mail: kokusai1986@jm.daito.ac.jp

以上